

2007 年度マクロ経済学の基礎 期末テスト

問題 1 (2 点 × 45)

(1) 需要曲線の形状は通常次のうちどれになるか。

右上がり 水平 垂直 右下がり

(2) 付加価値とは、生産額から何を引いたものか。

資本減耗 間接税 中間投入 補助金

(3) マルサスは人口と食料のどちらの増加スピードが速いと考えたか。

どちらでもない 人口 食料 同じスピード

(4) 失業率は、何に対する失業者の比率か。

労働力人口 総人口 男子人口 就業人口

(5) 次のうちフローのデータはどれか

消費 国富 資本ストック マネーサプライ

(6) 名目 GDP が 500 兆円で、マネーサプライが 750 兆円の時、マーシャルの k はいくらか。

0.67 1.5 250 1250

(7) 預金が貨幣として扱われるのはなぜか

日本銀行が定義しているから。

財務省が定義しているから。

銀行に信用創造機能があるから。

乗数効果があるから。

(8) ケインズの雇用理論でポイントとなるのは何か。

限界効率

有効需要

裁量政策

賃金の下方硬直性

(9) 貨幣数量式のうち正しいものはどれか。

$P V = M T$

$M T = P V$

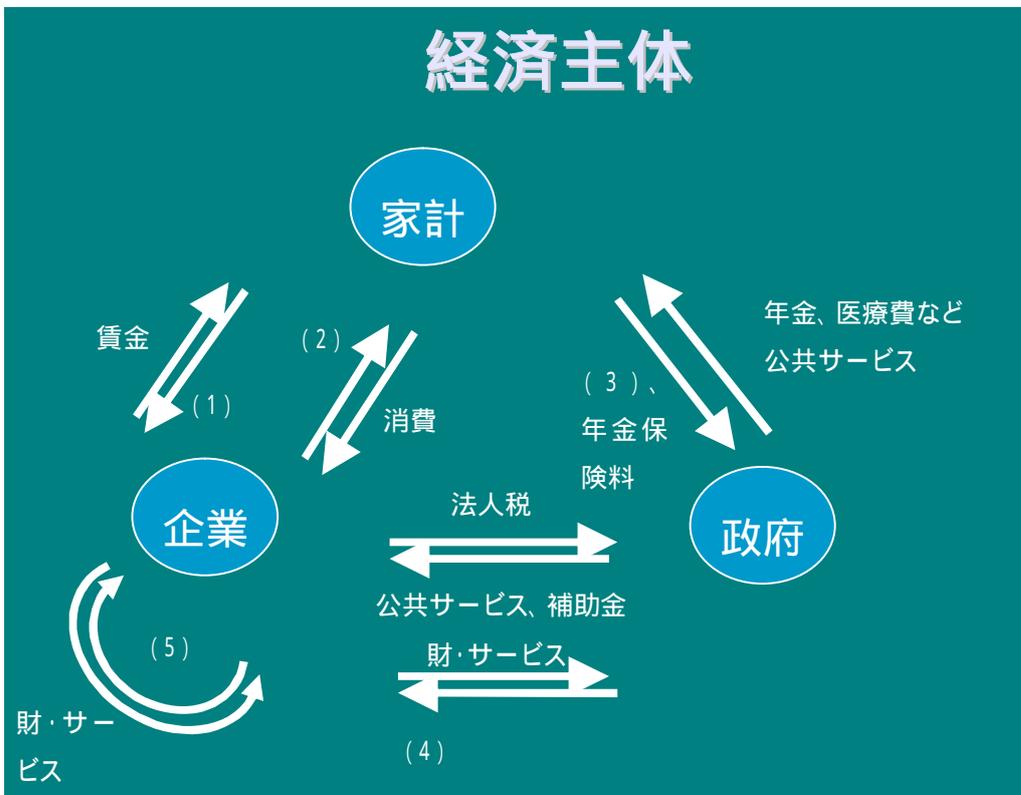
$P M = V T$

$M V = P T$

(10)生産物とそれに対応する労働力が次の表で与えられるとき、比較優位の原理に従えば、日本は自動車と小麦のどちらを作ることになるか。

どちらともいえない 小麦 両方 自動車

生産物1単位を作るのに必要な労働		国	
		日本	米国
生産物	自動車	100人	90人
	小麦	120人	80人



(11) 図の(1)に入る言葉のうち適当なものはどれか。

財・サービス 負債 労働力 政府支出

(12) 図の(2)に入る言葉のうち適当なものはどれか。

公共投資 消費税 財・サービス 政府支出

(13) 図の(3)に入る言葉のうち適当なものはどれか。

労働力 所得税 法人税 固定資産税

(14) 図の(4)に入る言葉のうち適当なものはどれか。

財・サービス 政府支出 消費税 労働力

(15) 図の(5)に入る言葉のうち適当なものはどれか。

投資 輸出 労働力 消費

国民経済計算の諸概念について以下の値が与えられている。

最終消費支出	260	総固定資本形成	120	在庫品増加	20
財・サービス輸出	60	財・サービス輸入	40	固定資本減耗	10
間接税	50	補助金	30	海外からの要素所得の受取	30
海外からの要素所得の支払	10				

(16) 国内総生産はいくらか

420 480 500 410

(17) 国民総生産はいくらか

440 490 510 420

(18) 国民純生産はいくらか

380 430 500 400

(19) 国民所得はいくらか

400 420 410 490

(20) 経済政策の担い手のうち正しいものはどれか

労働政策 = 経済産業省 貿易政策 = 厚生労働省

金融政策 = 市中銀行 財政政策 = 財務省

(21) スタグフレーションとはなにか

デフレと不況の共存

インフレと不況の共存

デフレとインフレの共存

インフレと好況の共存

(22) マルクスの著書として有名なものはどれか。

ユートピア

資本論

エミール

人口論

(23) 名目と実質について正しいものはどれか

名目 × 物価 = 実質

実質 / 物価 = 名目

名目 / 物価 = 実質

名目 + 物価 = 実質

(24) GDPデフレーターと同じ性質の経済指標はどれか

鉱工業生産指数 失業率 経済成長率 企業物価指数

(25) 付加価値を式で表すとどのように表されるか。

付加価値 = 生産額 × 中間投入

付加価値 = 生産額 - 中間投入

付加価値 = 生産額 + 中間投入

付加価値 = 生産額 / 中間投入

国民経済計算の諸概念について以下の値が与えられている。

国内総生産 300 固定資本減耗 50
 間接税 - 補助金 20 海外からの純要素所得 20

(26) 国民総生産はいくらか。

390 320 310 330

(27) 国民純生産はいくらか。

390 270 320 330

(28) 国民所得はいくらか。

290 250 320 330

ある国ではリンゴしか生産していないとする。右に列に2000年と2001年のリンゴの生産量と価格が書いてある。中間投入を考慮しないとき、この表を用いて表のそれぞれの数値を埋めよ。

	名目GDP P	実質GDP P	GDPデフレーター -	リンゴの 生産量 (個)	価格(円)
2000	(1)	(2)	100	10	100
2001	(3)	(4)	(5)	10	150

(29) 表中(1)はいくらになるか。

100 1500 150 1000

(30) 表中(2)はいくらになるか。

100 150 1000 10

(31) 表中(3)はいくらになるか。

10 1500 150 1000

(32) 表中(4)はいくらになるか。

100 150 1500 1000

(33) 表中(5)はいくらになるか。

10 1000 150 1500

(34) 公衆が保有する現金通貨と預金通貨の額をそれぞれC, D、銀行部門が保有する支払準備の額をRとする。今、公衆の現金・預金比率(C/D)は0.3、銀行部門の支払準備・預金比率(R/D)は0.1であるとする。

ハイパワードマネーの量が30兆円であるとき、公衆が保有する預金通貨の額Dはいくらか。

55兆円 60兆円 75兆円 70兆円

(35) 日本経済の用語で、1960年代から70年代までをなんと呼ぶか。

失われた10年 高度成長期 大躍進 平成不況

(36) 次ページのグラフで(1)は何を示すか。

消費者物価指数 消費者物価上昇率 企業物価指数 企業物価上昇率

(37) 次ページのグラフで(2)は何を示すか。

消費者物価上昇率 消費者物価指数 企業物価上昇率 企業物価指数

(38) 次ページのグラフで(3)は何を示すか。

失業率 日経平均株価 S & P 500 対ドル円レート

(39) 次ページのグラフで(4)は何を示すか。

消費者物価指数 対ドル円レート 実質GDP成長率 平均消費性向

(40) 次ページのグラフで(5)は何を示すか。

マネーサプライ 実質GDP 消費者物価指数 実質GDP成長率

(41) 次ページのグラフで(6)は何を示すか。

FFレート 日経平均株価 長期金利 コールレート

(42) 次ページのグラフで(7)は何を示すか。

長期金利 FFレート コールレート 対ドル円レート

(43) 次ページのグラフで(8)は何を示すか。

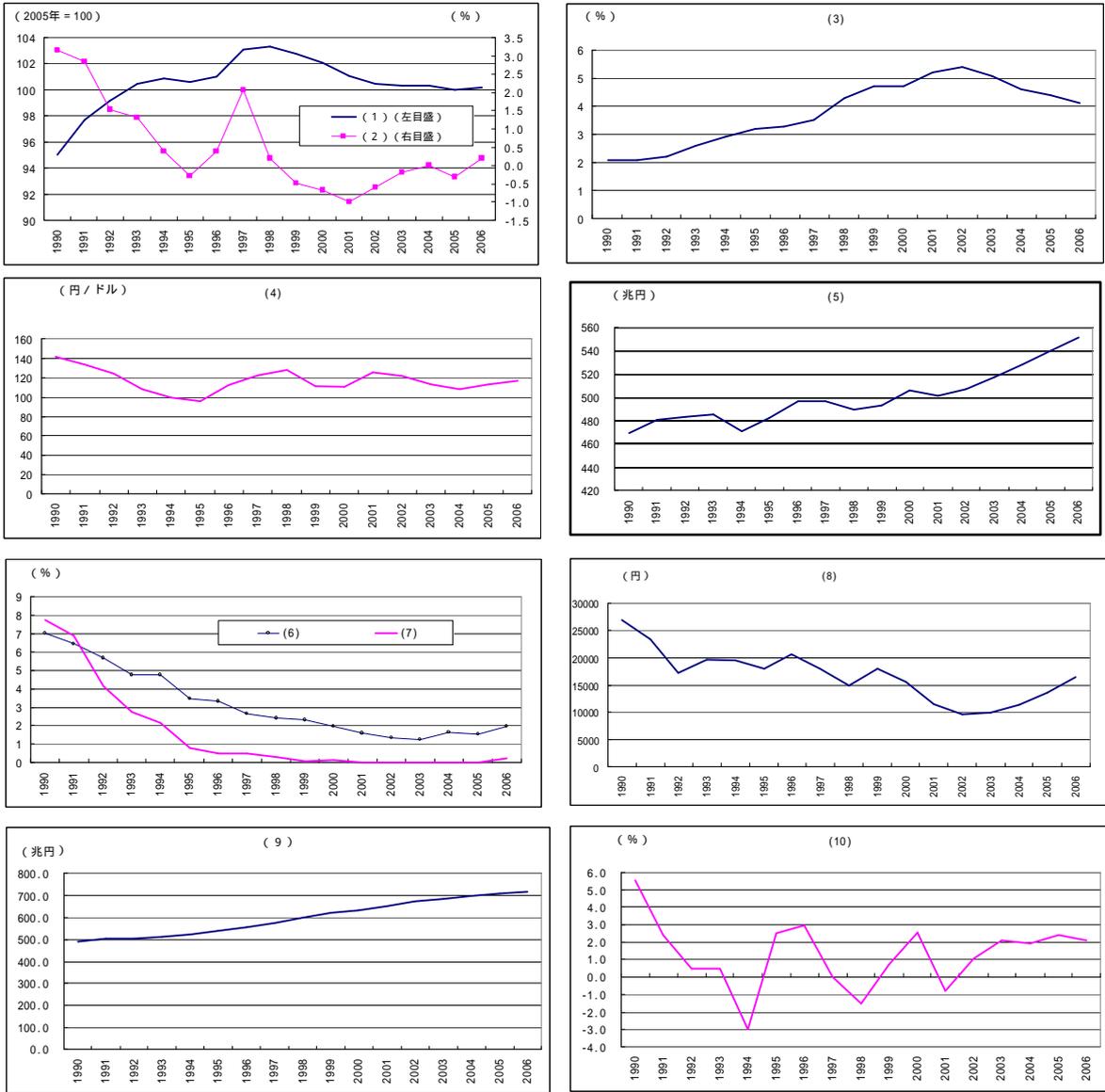
マネーサプライ 実質GDP 日経平均株価 S & P 500

(44) 次ページのグラフで(9)は何を示すか。

失業率 実質GDP 日経平均株価 マネーサプライ

(45) 次ページのグラフで(10)は何を示すか。

対ドル円レート 日経平均株価 失業率 実質GDP成長率



問題2 (5点)

次の表は、実質GDP成長率の表である。これを参考に、2008年度の成長率がどの程度になるか予想し、理由をかけ。成長率は、小数点第一位まで書くこと。

(正解があるわけではないので、予想と理由をかけば、得点できます)

年度	95	96	97	98	99	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
実質GDP成長率	2.5	2.9	0.0	-1.5	0.7	2.6	-0.8	1.1	2.1	2.0	2.4	2.3	1.3	

問題3 (5点)

授業の感想、改善点などを書いてください。(未記入は0点)